

開 會 の 辞

倉 橋 惣 三

本日はかく多数会員その他遠路の方々の御来会を得まして、有りがとうございます。日本保育学会もおかげで第六回總會を迎えまして、愈々盛大におもむき、殊に、ぞん／＼と、「学会」の形をそなえて参りましたことを喜びます。これ偏に研究發表者諸氏の御研究の学的御努力と、聴講者諸君の学的御態度によるものでありまして、偏に全會員の保育学への御熱心に基くことを特に感ずる次第であります。我国保育学の現状は、他の諸学にくらばまして、未だ必ずしも、学会としての充實を完了しているとはいえないかも知れませんが、その進歩は著しいものがあり、殊に保育實際家諸君の御精進によつて、理論と實際との連絡の密なるものがあり、学の名において、實際の苦心を侮り實際に忙しくして、学的研究の精を忘れるというよりも、他学会に往々見るところの弊に陥らないことは、堅実なる保育学会の進展として、好ましい路を辿りつゝあるものと喜びにたえません。理論を以て語り、實際を以て聴き、どこまでも幼児の生活を離れないで、進みたいものであります。我が日本の保育界のために、益々御尽力を願います。

尙、本日の總會の開催に当りまして、この立派な講堂と、各附属施設の自由な使用をお許し下された、日本女子大学々長大橋先生の御好意と、特に本日及準備のために多大の御尽力を下さいました、本学の上村、児玉両教授及び学生諸君の御好志に対して、心からお礼申し上げます。